

平成19年10月5日
社団法人日本ボート協会
ナショナルチーム委員会

08年ナショナルチーム強化方針

日本ボート協会は05年、ジョバンニ・ポスティリオーネ氏（GP）をヘッドコーチに迎え、北京オリンピックへ向けてLM2Xを最重点強化種目に指定、これにLW2X、LM4-を加えた軽量級3種目の強化を重点とした選手強化活動を進めてきました。

08年強化活動の開始にあたり、07年の総括と08年強化方針は以下のとおりです。

■ 07年総括

ミュンヘンの07年世界選手権において、軽量級3種目（LM2X、LM4-、LW2X）の北京オリンピック出場権を獲得すること、を最重要課題として強化活動に取り組んだ。LM2Xを最重点種目（A1）として、3人の強化指定選手を長期にわたりヨーロッパへ送り強化合宿を行った。LW2Xは重点強化種目（A2）、LM4-は（A3）強化種目と位置付け、強化費の傾斜配分を実施して強化活動を行った。その結果、LM2Xが北京オリンピック出場権を獲得した。

【07年世界選手権結果】

- A1：LM2X：6位（出場権獲得）
- A2：LW2X：ファイナルB進出（9位）
- A3：LM4-：ファイナルD（19位）
- LM1X：ファイナルA進出（5位）
- LM2-：ファイナルB（7位）

【07年強化活動】

1. A1（最重点強化種目）：LM2X（LM1X）

06年世界選手権7位の須田・武田両選手を北京オリンピック迄、特別強化選手に指定し継続強化を実施。

10月、アジア競技大会（12月、ドーハ）に向け長期強化キャンプを実施。

07年2月、3人目のA1選手（浦）を選考。4月より2度のヨーロッパキャンプを実施。

参加したワールドカップの成績は以下のとおり。

- WC#1（リンツ）：LM2X（浦・武田）4位、LM1X（須田）4位
- WC#3（ルツェルン）：LM2X（須田・武田）11位、LM1X（浦）7位

評価：所期の目標をクリアして、北京オリンピック出場権獲得。アテネ以降の継続的な強化活動の成果として、シーズンを通じた高強度のトレーニングに対する耐性を獲得し、大会で高

いパフォーマンスを示せるようになった結果、目標を達成をすることができた。3人のパフォーマンスに優劣はつけがたく高いレベルの競争環境が設定できている。

2. A2（重点強化種目）：LW2X

06年世界選手権終了後、強化順位をA2に上げ、アジア競技大会に向け10月から長期強化合宿を実施。同大会終了後、12月より07年日本代表評価選考キャンプを実施、6月の最終評価選考レースにより岩本、熊倉を日本代表に決定。7月の国内合宿を経てワールドカップ第3戦より渡欧、ギリシャ（イオアニナ）で長期合宿を実施。

参加したワールドカップの成績は以下のとおり。

WC#3（ルツェルン）：LW2X（岩本・熊倉）17位

評価：北京オリンピック出場権獲得（世界選手権8位以内）の目標には未達であったが、9位は過去最高の成績であり、大きく進歩し08年につながる成果が得られた。世界選手権直前のコンディショニングが良好に推移したことも好成績につながった。

3. A3（強化種目）：LM4-

06年世界選手権終了後、ロンドンオリンピックを見据えた中期的な強化活動を開始。アジア競技大会に向け、10月より長期強化キャンプを実施、同大会優勝。

大会終了後、12月より07年日本代表の評価選考合宿を実施、6月の最終評価選考レースで6名の日本代表を決定した。

7月の国内キャンプを経てワールドカップ第3戦より渡欧、ギリシャ（イオアニナ）で長期合宿を実施。

参加したワールドカップの成績は以下のとおり。

WC#3（ルツェルン）：LM4-（小畑、奥村、古池、片岡）22位、 LM2-（矢野、溝辺）8位

評価：この数年間の強化合宿で得た体力データとその推移に加えて、試合結果の推移も検討した結果、07年世界選手権の成績では北京オリンピック出場権獲得は不可能と判断する。

特に、基礎体力、基礎テクニクの面で世界レベルとの差は著しく、この差の克服には、所属団体における基本的トレーニングの実践とスweep種目への正しい取り組みが必要と考える。

4. U23・ジュニア

U23：12月から07年日本代表評価選考キャンプを実施、6月の最終評価選考レースにおいてU23日本代表を決定、7月、U23世界選手権へ派遣。

参加種目 LM1X・LM2X・LM4-・LW1X・LW2X（スコットランド・ストラスクライド）

評価：強化合宿を計画、実施したが、学生選手の時間的な制約、全日本選手権開催等の事情より計画通りの強化は出来ず、レースに向けてクルーとしての練習時間が絶対的に不足した。

ジュニア：6月、全日本ジュニアで日本代表決定、8月、ジュニア世界選手権へ派遣。

12月（天竜）、1月、2月（戸田）、シニア、U23と合同キャンプ実施。6月、最終評価選考レースに参加。

参加種目 LM1X・LM2X・LM4X・LW2X（中国 北京）

*10月、アジアジュニア選手権に参加。

評価：U23、シニアと合同キャンプを実施。U23、シニアにつなげるファーストステップとする位置づけを明確にした。

JM4X、JL1XはファイナルBへ進出した。特にJM4Xの9位は高く評価したい。

5. 体制

07年のナショナルチーム体制は、GPヘッドコーチによる指導3年目であり、チームとしての組織力強化で全体的なレベルアップを図った。

具体的には、スタッフの連携強化を推進、役割（担当）を明確にした。特にドクター、トレーナー、コーチの連携を強化した事で怪我予防、病気対策などに大きな効果があった。

外部からの情報収集なども推進、日本オリンピック委員会（JOC）、国立スポーツ科学センター（JISS）と情報交換を密にし、JISSからはボート担当研究員の長期海外派遣に協力を得た。

07年のチーム体制は、組織としての機能を十分に果たすことができた。

■ 08年強化方針

07年までの結果を踏まえ、北京オリンピックへ向けての強化活動は07年世界選手権でオリンピック出場権を獲得したA1、出場権獲得には至らぬが9位となったA2の2種目に絞り、継続実施してゆく。上記2種目の強化は07年10月から開始、コーチ・ドクター・トレーナーや情報戦略スタッフ、マネージングスタッフ等の総力を結集して、日本ボート界の念願であるメダル獲得へ向け邁進する。

A3（LM4- /スweep）は、この3年間を通じて得た基礎的体力のデータや07年の結果が示すとおり、体力、テクニクにおいて世界レベルとの差が著しく、北京オリンピック出場権獲得は断念するが、ロンドン大会とその後に向けた強化活動を実施する。

北京オリンピックを控え、世界トップレベルのクルー・選手の状況把握と情報収集、07年世界選手権、ワールドカップの分析等を行う情報戦略スタッフを設け、世界を意識した「戦闘力あり精度の高い」強化を推進する。

【08年目標】

- 1、LM2X：北京オリンピックメダル獲得
- 2、LW2X：北京オリンピック6位以内
- 3、LM4-：ロンドンオリンピック参加資格獲得へ向け中期強化計画スタート

【08年強化活動】

1. LM2X (A1 最重点強化種目) /北京オリンピック特別強化指定選手

男子軽量ダブルスカルは、北京オリンピックでのメダル獲得が十分に期待できる種目として、JOCからも重点強化種目の位置付けを得ており、引き続き3名（浦・須田・武田）に対象を固定し、北京オリンピック特別強化指定選手として集中的に強化を進める。

具体的には、選手所属チームのご理解とご協力を頂きながら、フルタイムでトレーニングに専念できる環境を整え、ナショナルチームコーチの指導の下、国際競技力の向上を図る。

オリンピックメダル獲得に向け07年10月以降、更に基礎体力の向上と、基本的テクニックの徹底を図るトレーニングを行う。

2. LW2X (A2 重点強化種目) /強化指定選手

世界選手権の結果を踏まえ、男子軽量級ダブルスカルに次ぐA2重点強化種目に位置づける。

アジア地区予選(08年4月上海)で北京オリンピック出場権の獲得、本番で6位以内を目指す。

07年の結果から、2名（岩本・熊倉）を10月以降、08年強化指定選手とし、フルタイムでトレーニングに専念できる環境を整え、ナショナルコーチの指導の下、国際競技力の向上を図る。強国と比較し更に質の高い練習の継続が必須である。また、減量、体調管理について課題を残しておりサポートスタッフの投入をはかる。

アジア地区予選派遣については、評価選考合宿を通じて選手評価を行い、08年2月中旬、派遣選手を決定する。

上記アジア地区予選派遣選手の決定後、次点の選手を選び補漕とする。なお、強化合宿の評価結果により、08年軽量女子スカル種目(LW1Xなど)のワールドカップ及び世界選手権(オーストリア オットেনスハイム)派遣を考慮する。

3. LM4- (A3 スイープ)

08年は、3月の評価選考合宿の結果により08年日本代表選手を決定し、LM2-を含めたスイープ種目のワールドカップ及び世界選手権(オーストリア オットেনスハイム)派遣を考慮する。

なお、ロンドンオリンピック出場権の獲得を見据え、選考段階で年齢制限(2008年12月31現在29歳未満の選手を対象とする)を行う。

4. 次世代男子スカル (A3 スカル)

ロンドン以降を見据え、次世代男子スカル種目選手を発掘・育成の為、スイープ同様、選考の段階で年齢制限(2008年12月31現在29歳未満の選手を対象とする)を行い、中期的な強化計画をスタートさせる。08年においては、2月の評価選考合宿の結果により、08年日本代表選手を決定し、スカル種目(LM1X, LM4X, LW1X)のワールドカップ及び世界選手権(オーストリア オットেনスハイム)派遣を考慮する。

5. オープン種目

アジア及び世界へ挑戦するため、エルゴ数値による条件設定で選手個々を評価する。その結果を以って挑戦の可能性を判断する。

6. ジュニア・U23（競技者育成プログラムとの連携）

JOCの推進するゴールドプランステージⅡ 競技者育成プログラムと連携し、ジュニアからシニアまで一貫した育成・強化を進めるには、ジュニアからU23を経てシニアに至る各カテゴリーの目標を設定し、早い段階から将来のシニアナショナルチーム候補選手が国際レースの経験を積むことが出来るよう、その活動フィールドを準備する必要がある。

その為に、シニア・U23・ジュニアを一貫した指導理念で貫けるよう、ナショナルヘッドコーチが全ての世代のコーチを統括する体系とし、一貫強化推進の為に、GPヘッドコーチによるテクニカルミーティングを定期的に開催する。

なお、可能な限りシニアのトップ選手と合同キャンプを行い、カテゴリーに跨る強化を実施し、有望選手の発掘育成が実現した場合には、将来性も加えて評価を行い、場合によってはカテゴリーに跨った派遣も考慮する。

U23選手選考は評価選考キャンプを通じて行い、ジュニア選手選考は従来どおり、全日本ジュニア選手権でシングルスカルによる選手権方式とする。

U23 世界U23選手権（男女合計10名程度派遣）

ジュニア 世界ジュニア選手権（男女合計10名程度派遣）

アジアジュニア選手権（男女合計6名程度派遣）

7. 基盤強化

ナショナルチームは世界を相手に戦うチームであり、選手のみならずチーム全体のレベルアップが必要である。その為には、優秀な人材を適所に配置し、活動基盤の強化を推進する。

A：指導体制

a) コーチ

ヘッドコーチ： ジョバンニ・ポスティリオーネ

A1 : 坂本 剛健

A2 : 杉藤 洋志

スイープ (U23) : 阿部 肇、 武良 誠

ジュニア : 榎田 宏

b) 外国人ヘッドコーチ体制の継続

日本ボートの底上げには世界標準の漕法、トレーニングの導入が必要である。05年よりGPヘッドコーチにより世界と戦える指導と体制を整えてきたが、現時点では国内コーチでそのレベルまで達した者はおらず、今後も外国人ヘッドコーチ体制を継続させる必要がある。また、その下に日本人コーチがつくことで、コーチの育成にもつながる。

c) ナショナルチームコーチの発掘、育成

スイープコーチ並びに中長期目標の達成のため、コーチを新たに発掘、育成し、指導者のレベルを上げる必要がある。また、JOCスポーツ指導者海外研修制度を利用して国際

競技力の向上の為の調査、研究、情報収集などろ学ばせ指導者として育成する。

B：スタッフ体制向上

JOC ディレクター制度導入を見据え高度なレベルで対応可能な人材を確保する。

1. JISS（国立スポーツ科学センター）との連携強化
2. メディカル（ドクター・トレーナー）担当と現場と連携強化
3. マネジメントのスペシャリスト養成
4. 情報戦略担当者の設置 → 各国の情報収集（情報収集・整理）

C：環境充実

ナショナルチームの活動を、幅広く日本のボート関係者へ認知戴くことが重要であると
考え関連作業を開始。

以上

「 連絡事項 」

- 08年強化方針の説明会を以下により行う予定です。

日時：12月1日（土）18：00～

場所：戸田公園事務所 2F